

沈黙に白を

沖縄戦聞き取り47年

(71)

石原 昌家

そもそも沖縄県の平和祈
長、運営委員10人)が結成
念資料館が、何をメインに
して展示してきたかを、こ
こで確認しておきたい。詳
細は、連載第20、21回(2
018年6、7、7/17)
に記述してある。海洋博沖
縄館館長だった総合プロ
デューサーの中山良彦氏が
1975年6月に開館した
県立平和祈念資料館の展示
内容改善の事業を受託し
た。その中山氏を中心に

文化

心に響く言葉

当然、沖縄県の平和資料
館だから沖縄県が住民から
える会(池城秀章会長、
中山良彦)や仁屋昭嗣会
聞き取りしてきた証言を中



沖縄戦体験の証言を収録した「沖縄県史」(左)と「沖縄戦聞き取り」(右)の書籍

心に展示することになった。

た。証言資料としては71年
6月に発行された『沖縄県
史第9巻「沖縄戦記録1」
琉球政府編纂発行』と沖
縄県史10巻「沖縄戦記録2
県史」の証言記録を必読文
献と位置づけたり、沖縄戦
3月(写真参照)を中心
に証言を精選することに
した。各メンバーがその県史
以上、沖縄県の平和資料

平和祈念資料館展示問題 ④

メイン展示は住民証言 県の動きに「事実隠蔽」批判

を読み込んで、それぞれが
採用したい証言内容を提案
するという方式を採った。
77、78年にかけて、中山良
彦氏宅(現在居酒屋屋レキオ
スの2階)に各メンバー提
案の証言を持ち寄り、それ
ぞれが全国の前で凄惨な内
容に何度か声をつまらせな
がら朗読し、採否を決めて
いった。全員が県史の証言
を読み込んだその神髄は、
参観者の心に響く「展示む
すべの言葉」に結実してい

初の知事発言

琉球新報、沖縄タイムス
面紙が資料館の展示内容を
更問題を抱いた1999年
8月11日の夕刻、県知事が
那覇空港で記者団に囲ま
れ、記者の質問に答えるこ
とになった。琉球新報の8

月12日付朝刊社会面がその
内容を以下のように報じて
いる。
「新平和祈念資料館」
「展示内容は検討中」
「断変更で補償知事」
「開き決定」という見出し
で「来年三月開館予定の新
しい県立平和祈念資料館の
構型の一部が監修委員の
承認を得るまま変更されて
いた」と報じて、稲嶺忠
一知事は十一日夕、東京が

ら戻った那覇空港で記者団
に県の立場を説明した。構
型の変更について稲嶺知事
は「作業の途中の段階だ」と
述べ、最終的には監修委
員に承諾を得る方針を示し
たと報じた。
「稲嶺知事は『新聞報道
はいろいろ誤解があると懸
念。現在三月に開催され
た監修委員会で承認された
展示内容に基づいて、具体
的な展示内容の検討作業を
進めている段階。結果を

平和団体の動き

沖縄マニットを控えてい
る県としては「平和祈念資
料館展示問題」の鎮静化を
図りたかったはずだ。それ
で担当部長の次長課長が
行動をおこしたと思われる
のだが、沖縄戦の中東抹殺
に行動をおこしてきた人々
の動きも迅速だった。そ
の1つは「沖縄平和運動セ
ンター(崎山嗣等議長)」
である。同日、すなわち県
に抗議したことを琉球新報
が9月8日付朝刊が報じて
いる。「一方面的変更す
るな」「新資料館展示問題
」「民主団体が県庁抗議」と
いう見出しのもと、その代
表が「十三日午後、県庁に
太田守胤文化園国際局長を

相を執すというところは当
前のことだ。ただ実相を
展示内容について『一方的
な変更』をしないよう求
め、早急に展示内容を県民
に公開することを要請し
た。
太田次長は「最終的に
は監修委員会に承諾を得
る」と述べ、現在はあくま
でも作業途中であることを
強調した。崎山議長は「沖
縄戦で日本軍は住民をカマ
から追い出し」「スパイ容
疑で虐殺するなどの暴行を
繰り返した」とは体験者の
多くが証言している。今回
の県の一方的な変更は歴史
の事実を隠蔽し、わい曲さ
せるもので、到底許される
ものではない」と強く抗議
した。次長は「監修委
員会は通常の審議会とは違
つて、まさに監修そのもの
をおこなっているのだから、
最終的には監修委員会に承諾
を得る」と答えた。「展
示内容の公開については
監修委員会が判断すること
だ」とも答え、監修委員の
意向に従う方針を伝えた。
た返答をしている。

(次回に続く)
(次回は12月前半掲載)